

考えさせられる質問

日本では、七秒に一人の割合で、赤ちゃんが、墮胎手術によって、生まれる前に殺されているそうです。
 「若い人がたくさんくるのです。とつてもたくさん、やってくるのです。その中心は高校生です。高校生を中心とする十代の若い患者さんが、とても多くやってくる。今の病院で診療を始めてから三年間で、私は十代の患者さん四百人以上に接してきました。その彼女たちは、例外なく、傷ついています。心身ともに、ボロボロに傷ついています。」
 そう語るの、産婦人科医の河野美代子さんです。河野美代子さんは、「さらば、悲しみの性」という本を書いていらっしゃいます。その本を読んだ私は、忘れられない言葉と出会いました。こういう言葉です。
 性病は男女平等、でも妊娠は男女不平等 という言葉です。安易な肉体関係を男女がもつことで、性病に感染することがある。それは、男性にも女性にも起こります。ところが、産婦人科医として、沢山の女性の涙をつぶさに目撃してきた彼女の言葉は、こう言います。「でも妊娠は、男女不平等！」
 最近、十八歳の女性が妊娠したらしいというので、私の病院にやってきました。相手は二十歳の男性で彼も働いている。そして、将来、結婚を約束しあっている間だということ。そこで私は言いました。
 「じゃあ、産めるね。二人とも働いているんだから、産めるよね」
 彼女は笑顔でいきました。
 「産みます。そして二人で育てます」
 彼女は明るい顔で帰っていきました。
 ところが三日後、また彼女がやってきました。そして、診察室のいすにすわるなり、泣き出しました。
 「産めません・・・」
 「どうしたのよ。産むつもりだったんでしょ？」
 彼女は泣きじゃくるばかりです。さらに聞きますと、ポツリと言いました。
 「彼がだめだっていました。」
 彼は待合室で待っていたので診察室に入ってもらい、理由を聞きました。すると彼はこう答えます。
 「先生、まだ早いですよ。僕、まだハタチです。とてもまだ女房、子供を養っては行けません。」
 「あなた、給料はどのくらいなの？」
 「手取りで十六万円くらいです。」
 「そう！ええ給料じゃないの！毎月十六万あったら奥さんも子供も十分養っていけるよね。それよりも少ない給料で妻子を養っている人いっぱいいるよ。」
 私がそういうと、すぐに彼の答えが返ってきました。
 「先生、車のローンがあります。」
 「そう。でも、その車は手放せないの？」
 「そんなア！車はぜったいにいります。ぜったい手放せません」
 そう彼は言い切りました。私は内心、ああ、赤ん坊のいのちよりも車の方が大事なのかと思いました。
 そして河野美代子さんは、こう言います。手術を受けるのは男性ではない！

次の四例にみるような状況の場合、墮胎してもしかたがないとあなたは思いますか？

1. 子たくさんで、極度に貧しい牧師の家庭がありました。もうすでに子供の数は、14人。ところが、さらにもう一人妊娠していることがわかりました。15人目の子供です。もうやっていけないほどの極貧生活なのなんです。この夫婦は、自分たちの経済状態と世界の人口爆発を考えたら、墮胎を考えるべきだとあなただったら、アドバイスしますか？
2. 白人の男が、12歳にしかならない黒人の女の子をレイプし、妊娠させました。もしあなたがこの子の両親だったら、墮胎するよう説得することを考えますか？
3. 父親は、鼻炎で苦しむ大酒のみでした。母親は、肺結核を患い、四人の子持ちです。一人目の子供は、目が見えず、二人目の子供は聾啞者でした。三人目の子供も聾啞で、四人目の子供は肺結核です。なんとこの母親は、さらにもう一人、子供を妊娠しました。こんなひどい状況でもう一人ですって？あなただったら彼女に墮胎を考えるよう勧めますか？
4. 一人のティーンエイジャーの女の子が妊娠しました。まだ結婚前だというのに・・・しかも今、婚約しているボーイフレンドとの子供じゃないんです。彼はもう大変、心中おだやかではありません。あなただったら、この女の子に墮胎するよう勧めますか？

第一番目のケースでもし墮胎したら、あなたは、ジョン・ウェスレイという19世紀最大の伝道者を殺害してしまったことになるのです。

二番目のケースでは、エセル・ウォータースという偉大な黒人のゴスペルシンガーを殺したことになるのです。

三番目のケースで墮胎したら、ベートーベンを殺したことになるのです。

そして、四番目のケースでもし墮胎に賛成したら、あなたは、今、イエス・キリストを殺したことになるんです。

私たちは、自分勝手な判断で、この人には、生きる価値があるとかないとか、簡単に決めつけてはいけないように私は思います。私は、十五歳の時に自殺しようと考えていたことがあります。

花は散るために咲いている

約束は破るためにある

人は死ぬために生きている

というのが、その頃の私の人生観でした。

自殺は、厳密な意味では、殺人です。自分で自分を生きる資格が無い者と結論づけることだからです。自分を自分で死刑にしているわけです。

☆ 聖書は、永遠に価値あるものが三つあると言っています。

それらは、「信仰と希望と愛」です。

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。 1コリント13:13

I. 生きるとは、命を使うということ

A. 生きているとは

私たちは、「生きている」とか、「死んでいる」という表現を用います。これは、ふつう、心臓が動いているかとまっているかという次元での話です。もしどなたかに道でお会いした際に、「あなたは生きていますか」という質問をしたら、「この人は何を言っているのだろうか？」と思われるに違いありません。

ところが、その人の目をじっと見つめて、「あなたは真実に生きていますか。」と質問するなら、「この人が聞いているのは、心臓が動いているかどうかを尋ねているのではなく、人間らしく生きているかどうかを聞いているのだな。」と気がつかれるはず

B. 生命と命

柏木哲夫先生は、「心をいやす55のメッセージ」という本の P.208~211で、北里大学名誉教授の立川昭二先生の特別講演について記しておられます。

立川先生は、「生命と命とは違う」と話されたそうです。

「生命は閉じられていることが特徴で、命は開かれているという特徴がある」と立川先生は違いについて述べられました。

「生命保険」と言う時の生命は、どこかで終わってしまう印象がある。「生命維持装置」も、維持装置をはずせば、生命は終わりだということです。

生命は、人間の肉体に閉じこめられている感じがする。心臓が動き、肺が動き、内臓が動いて私たちの生命が保たれているのではないのでしょうか。

ところが、「命」ということばは、人間の肉体を突き破り、拡散する、広がりを感じさせる言葉ではないかと柏木先生は言われます。

医療機関が、「この病院の命は、全人医療です」と言った場合、この「命」もずっと続くもの、広がるものという感じがするということです。そして、柏木先生は、星野富弘さんの「命一式」という詩を紹介しておられます。この詩の中で星野さんが用いられている「命」という言葉も広がりのある命ではないかということです。

新しい命一式 ありがとうございます
大切にに使わせて頂いておりますが
大切なあまり 仕舞いこんでしまうこともあり
申し訳なく思っております
いつもあなたが 見ていて下さるのですし
使いこめばよい味も出て来ることでしょから
安心して思い切り
使って行きたいと思っております

(『あなたの手のひら』偕成社)

C. 使命

三浦綾子さんも著書の中で言うておられますが、「使命」という言葉は、「命を使う」と書きます。私たちが、創造主より頂いた命をあまりにも大切にせずぎて、しまいこんでしまうならば、それは主の御心にそうものではありません。新約聖書の中に御主人からお預かりしたものを十分に用いた人と、しまいこんで使わなかった人についてのたとえ話が記されています。マタイ 25:14-29です。

天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。五タラント預かった者は、すぐに行き、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

さて、よほどたつたから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいました。ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。 マタイ 25:14-29

このタラントという言葉がもとになり、芸能人のことを指す、タレントという言葉が出来ました。創造主から与えられている才能や資質を意味しています。

聖書によれば、芸能人の方々がタレント(タラント)を与えられているわけではありません。私たち全員が、創造主のご配慮によってそれぞれ才能や資質をいただいているのです。ある人は他の人と自分を比べて、自分の才能はあの人よりも「タラント」だといって、自己卑下し、すねる人があるかもしれません。才能や資質も人それぞれ、内容も度合いも違うかもしれません。しかし、創造主は、それらを用いなさいと言っておられるのです。

II. 生きるとは、愛されていることを知ること

A. 命を表す三つのギリシャ語

新約聖書が記されたのは、ギリシャ語という言語ですが、ギリシャ語には、命を指す言葉が少なくとも三つあります。「ピオス」という語と、「ゾーエ」という語、そして「プシュケー」という語です。

「ピオス」という語は、生理学的、生物学的な命を表現する時に用いられます。心臓が鼓動しているとか、脈があるという意味で生きていることを指しています。この「ピオス」がもとになり、英語のBiology生物学という言葉ができました。バイオ・テクノロジーという言葉も、もとをたせば、この「ピオス」が原点となっています。

「ゾーエ」という語は、原則的、絶対的な意味での命を表す語で、人間だけでなく、動物の生命を表す時にも用いられます。このゾーエがもとになって、英語のZoology動物学や、Zoo動物園という語ができました。生き物の存在的生命そのものを表す語です。そして、この「ゾーエ」の意味での命は、肉体の死の後もなお生き続けるような命です。つまり、「ピオス」の意味での肉体の命が無くなったとしても、永遠に続く命という意味で、聖書には、ゾーエ・アイオーニオス(永遠の命)という表現が多く用いられています。

「プシュケー」という語は、もともと命の息を表す語ですが、意志をもった個人的な命を表します。心、思い、精神、魂などという日本語に近い意味での命です。

B. 生ける屍

日本語には、「生ける屍」という表現があります。生きていれば、死骸であるはずはありません。屍であれば、生きているはずがないのです。ところが、人間だけにこのような言葉使いが用いられ、かつ理解できうるのです。

一昔前の時代、不幸なことですが、愛している人と結婚できず、親の命令で一方的に結婚を強いられ、舅や姑に仕え、夫にも仕え、家柄のために子供を産ませられるという女性がおられました。そのような方が、「私の人生暗かったよ～。結婚なんて墓場のようなもの。私は生ける屍です。」とおっしゃることがあります。この方のお気持ちには、自分が一人の人格として、人間らしく生きてはいないという無念さが漂っています。生物学的な意味では、呼吸をし生きている。でも、人間としては、抑圧され、人格を否定され、自由に生きることを抹殺されたというお気持ちなのだろうと思います。

C. 人は愛無くして、生きてはいけない

「ピオス」という意味での命ではなく、人格的な尊厳を基盤にしている心という意味での「プシュケー」の命、そして、肉体が死んでもなお、創造主の御前で責任ある全人格としての命を問われ、永遠をどこでどう過ごすかにも関係する「ゾーエ」の意味での命を考える時、私たち人間は、愛なくして生きていけないと言って良いでしょう。

☆ 聖書は、永遠に価値あるものが三つあると言っています。

それらは、「信仰と希望と愛」です。

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。 1コリント13:13

人間は、誰かに愛され、信頼され、自分も誰かを愛し、信頼する関係を持っていないと、孤立し、孤独に陥ります。自らの存在理由、存在の意味、目的を見いだせなくなるものです。スカンジナビア三国では、社会福祉が大変進んでおり、高齢者はとても行き届いた配慮を受けることができます。少なくとも「ピオス」の意味での命は、とても快適な環境で守られています。食べたり、寝たりすること、安全が保証されていることなどです。衣食住という意味では、何不自由なく老後を送っている人が多いのです。しかし、それにもかかわらず、高齢者の自殺率が大変高いのです。なぜでしょう。

「今日も一日、どこからも電話がかかってこなかった。」「何日も手紙がこない。」「自分は誰からも愛されていない。信頼されていない。誰からも必要とされていない。」「人が払ってくれる税金を浪費しているだけの自分は、人間としての命は、もう死んでも同然だ。」そのような孤独感に耐えきれず、自らの手で自分の命を絶つ人があとをたたないのです。

III. 生きるとは、愛されていることを信じ、希望が与えられること

A. 愛を基盤とした希望は、人に生きる力を与える：信仰と希望と愛

☆ 聖書は、永遠に価値あるものが三つあると言っています。

それらは、「信仰と希望と愛」です。

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。 1コリント13:13

信仰を説く宗教は多くあります。鯨の頭も信心からというように、私たち日本人は、宗教心の篤い民族です。信じる対象が何であろうと、熱心に信じるのが大事なのだと言います。そう言いながら、自分の子供がイエスキリストを信じ、クリスチャンになりますと、「信仰もホドホドにしておけよ」とか、「信じてもいいけど、凝り固まっちゃだめだぞ」と言われたりします。日本人は、信仰、信心というものを良き業の一つ、功德のように考えてしまう危険性があります。自分の信仰が他の人より立派であるとか、堅固であるとかいうことを誇りにしやすく、また、自分より不熱心に見える人を見下す傾向が見られるのです。ですから、信仰だけでは、不十分です。不明瞭です。

聖書は、信仰と共に、「希望」が重要であり、永遠に価値あるものだと言います。「希望」を説く宗教も多くあります。この信仰に入れば、病気が治ります。お金が儲かります。願い事が叶います。そう人々に期待をもたせる宗教はたくさんあります。

「希望」という名のあなたをたずねて・・・という歌がありました。希望はとても魅力的な言葉です。希望がなければ、私たちは生き生きと前進することができません。どのような困難な状況、苦難の長いトンネルの中を歩いているように感じても、かならず、いつかはこのトンネルを抜けるのだという希望があってこそ、私たちは前進することができるのです。しかし、この「希望」もただそれだけでは、単なる「希望的観測」であったり、根拠のない「から喜び、ぬか喜び」にすぎなかったらどうでしょう。自己暗示を繰り返して、自己催眠にかかっているだけだったとしたら、客観性、確実性が問われることにならないでしょうか。揺るぎない、確固とした「希望」が私たちに保証されるためには、ただ単なる自己満足的な信じ込みだけでは、不十分なのです。

信仰と希望は、それだけでは、私たちに真の幸せをもたらす得ないのです。聖書には他の宗教にはない、もう一つの特徴的なことが提示されています。それは、主イエスキリストの十字架によって表わされた、「創造主の愛」です。

創造主はそのひとりを世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、創造主の愛が私たちに示されたのです。私たちが創造主を愛したのではなく、創造主が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。 1ヨハネ4:9-10

創造主は愛のお方だと聖書は言います。この愛のお方に似せて私たちは造られました。ですから、私たちは、愛されること、愛することを何よりも必要としているのです。

互いに信頼しあうところに、希望が生まれます。そして、信じあう心、信頼を寄せる相手を信じ、期待する心の基盤となるのは、なんといっても愛する心です。「人間は、愛を呼吸していなければ、死んでしまう存在だ」と言った人がいます。

B. ジョニーに希望をもたらした愛

1926年の事です。アメリカは、ニューヨークのあるホテルの一室で電話が鳴りました。ジョニーという少年の父親がかけてきた電話でした。

「ぶしつけなお願いで大変申し訳ないのですが、どうか、息子のために、サインボールを送ってやってはいただけませんか。」

このジョニーという少年は、十一歳でした。背骨の難病にかかり、八方手を尽くしても一向によくならず、ベッドに寝たきりになっていたのです。医者はもう絶望的だといひ、匙を投げていました。どうしようもないとわかっていてもあきらめきれない。せめて、野球好きな息子の願いを叶えてやりたい。

ホテルの一室でその電話を受けたのは、大リーガーの超有名選手、ベーブ・ルースでした。

「ベーブ・ルースといえば、今をときめくホームラン王。見ず知らずの者の願いなど、聞いてくれるはずがない。」そう思いながらも、ベーブ・ルースに関する記録や記事は、全て切り抜き、スクラップ帳に丁寧に整理しているジョニーの姿を見ると、父親は、何とかこの子の願いを叶えてやりたいと思うのでした。そこで勇気をだして、電話をかけてきたのでした。

数時間後、病室のドアを開く音でジョニーは目を覚ました。まさかと目を疑い、こすりました。写真でしか見たことのないベーブ・ルース本人が、今、ジョニーの前に立っているのです。明日からワールドシリーズが始まるという多忙な時にもかかわらず、ベーブ・ルースはこの電話の後、ニューヨークからニュージャージー州、エセックフェルズの病院まで、三時間もかけてやってきたのでした。

ベーブ・ルースは、ベッドに腰をかけ、やさしくジョニーにほほえみかけ、さっそく用意してきたサイン入りのバットとグローブ、そしてボールをプレゼントしてくれました。そして、こう言ったのです。

「ジョニー。このバットとグローブを持って、君は他の子供たちと野球ができるようになるんだ。自分の足で立ち上がるんだ。」

両目をまんまるく見開き、びっくり仰天したまま、言葉も出せないでいるジョニーにベーブ・ルースは、こう尋ねました。

「何か他に僕にしてほしいことはあるかい？」

ジョニーはしばらく躊躇していましたが、思い切って口を開きました。

「ルースさん。ワールドシリーズで、ぜひ、ホームランを打ってください。」

するとベーブ・ルースは、ジョニーの頭をやさしく手でなでながら、こう言いました。

「明日からのカーニバルとの試合では、必ず大きなホームランを打ってやる。ジョニー、君のためにね。」

ジョニーは、自分の病気のことを忘れてしまうほど、興奮で胸がドキドキしていました。そのとき、ジョニーは、今までの絶望的な気持ちが、将来への希望に変わっていくのを内側から感じていました。「僕もベーブ・ルースに約束する。きっとこの足で立てようになる。」

ワールドシリーズの実況中継をジョニーはラジオにかじりつくようにして聞き入っていました。

「ホームラン、大ホームラン！」アナウンサーが興奮した声で叫んでいます。

「ベーブ・ルースがホームランを打った。僕のために約束のホームランを打ってくれたんだ！」

その後、ジョニーの病状は、奇跡的に回復しました。医者にも不可能と思えたことが現実になったのです。ジョニーはベッドから自らの力で床に降り、なんと両足で歩くことができたのでした。

ベーブ・ルースがジョニーに対して示してくれた見返りを期待しない無私な愛と励ましが、ジョニーの心に希望を与えたのでした。

人は、貧困や飢えだけによって死ぬではありません。絶望が人の命を奪い取っていくのです。

C. 創造主の愛が、信じるあなたに希望をもたらす

創造主は愛のお方です。私たちの絶望をイエス・キリストの十字架によって解決していただき、永遠の希望を与えてください。私たちは、ただこの創造主のご親切を信じ、お受け入れするだけでよいのです。そのとき真の命が私たちのものとなるのです。肉体の命が尽きるがあっても、この命は永遠につづくのです。

私たちの祈りは、この主イエスキリストが提供しておられる永遠の命をまだ受け入れておられない方々に創造主の恵みをお届けする者として、私たちが主に用いて頂くことを願う祈りでなければなりません。そして、私たちがすでに創造主から与えられているタラントを、穴を掘って仕舞いこむのではなく、人々の救いのためにお預かりしているこのタラントをどんどん使い、使うことができるよう祈り続けなければならないのです。肉体の生命は、やがて終わりを迎える時がやってきます。しかし、主イエスキリストを救い主と信じ受け入れた人には、決して死ぬことのない永遠の命が与えられると創造主がお約束下さっているからです。

聖書の言葉

罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。ローマ6:23

アクション・ポイント(生活への適用)

1. 「あなたは生きていますか」という質問と「あなたは真実に生きていますか。」という質問とに違いがあると思いますか。あなたは、創造主から与えられたタラントを有効にもちいて、日々、使命をはたしていると思いますか。
2. 人間は、誰かに愛され、信頼され、自分も誰かを愛し、信頼する関係を持っていないと、孤立し、孤独に陥ります。社会福祉が大変進んでいる国でも絶望し自殺する人がおられると聞きます。信仰と希望と愛という言葉は、あなたの現在の生活ではどのような意味をもっていますか。
3. 河野美代子さんの、「性病は男女平等、でも妊娠は男女不平等」という言葉についてどう思いますか。他の人と語り合ってみましょう。
4. 「いのち」を表す、ギリシャ語の「ビオス」という語と、「ゾーエ」という語、そして「プシュケー」という語について考えてみましょう。